

# カムバックプロジェクト

Come Back Project - ホットー息、夏楽プラン -

## 実施報告書

フレンドシップミーティング実行委員会

### 目次

プロジェクト趣旨	1 頁
プロジェクト概要	2 頁
プロジェクト実施内容	3 ~ 9 頁
参加されたご家族の感想	10 頁
カムバックプロジェクトスタッフの感想	11 頁 ~ 13 頁
プロジェクトの課題	14 頁 ~ 15 頁
総括	16 頁 ~ 17 頁

## プロジェクト趣旨

震災の影響で、生活基盤が崩壊してしまった中で、次の一步を踏み出すためには多大なエネルギーの蓄積がご家族 お一人お一人には必要です。遠方ではありますが、大阪や神戸の地で1~2週間程度をご滞在していただき、心身のケアを含めた生活の場の確保、専門家による人的支援により、今後の人生に向けて、前を向いて進んで頂きたい、そういった願いでこのプロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトの実施にあたっては、フレンドシップミーティングのスタッフが、このプロジェクトをサポートします。フレンドシップミーティングには3つの柱(目的)を掲げています。

しょうがいを持つ子どもさんの進路・就労・将来の生活設計についての支援を、家族同士が集まり、専門家とともに話し合える場を持ち、情報をシェアしていくこと。

父・母が「親」という立場から離れて、労を癒して頂き、仲間とともに今の自分を、そしてこれからの自分を大切に感じて頂けるようなワーク等を提供すること。

兄弟姉妹が、仲間と活動を通して、日ごろの思いや考えを互いに表現し合える場を設けること。

これらの3本柱を念頭に、専門スタッフがボランティアとして共に活動して参りました。そして、ここで育まれた財産をこの度の震災支援に活用できればという願いから、本プロジェクトを起動させることが出来ました。

委員長 堅田 利明

### カム バック プロジェクト主催側スタッフ

#### <フレンドシップミーティング実行委員会>

委員長 堅田 利明  
副委員長 田伏 高治  
事務局 本郷 伸一  
委員 熊谷 則子  
委員 山田 博一  
委員 テッセソソ淳子  
委員 尾藤 百合  
委員 山口 須美子

アドバイザー 黒田 崇  
アドバイザー 小池照男  
アドバイザー 伊藤昌洋  
アドバイザー 大西 晋

#### <今回ご支援を頂戴したスタッフ>

##### カム バック プロジェクト メンバー

武田 純子	久村 恵美	相川 眞理	阿部 竜宏	清水 彬久
姫野 操子	山本 亨	相川 雄翔	新谷 はるか	栗本 和美
石倉 泰三	由良 裕	砂子 駿	宇野田 陽子	土山 剛志
石倉 悦子		林 敬子	中塚 志麻	松井 久実
上野 大		江元 純子	井上 和美	
加藤 和彦			山中 潤子	

(順不同)

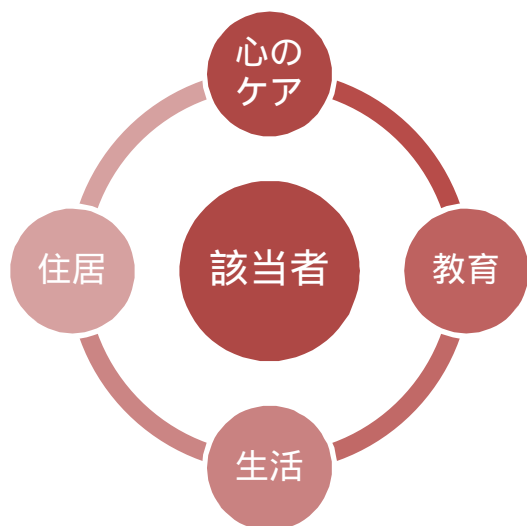
# プロジェクト概要

名称 : カムバックプロジェクト  
実施日 : 平成23年8月3日(水曜日)～8月14日(日曜日)  
会場 : 学校法人関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウス  
ヴォーリス六甲山荘、くららべかり 石倉さんの民家  
主催 : フレンドシップミーティング実行委員会  
協力企業・団体 : 神戸ユニバーサル研究会 学校法人関西外国語大学 兵庫県湾岸開発株式会社  
株式会社新紙浅 株式会社ゆみのコーポレーション コウダイケアサービス株式会社  
サンスマイル株式会社 株式会社花鳥園 株式会社未来共創 錦城護謨株式会社  
特定非営利活動法人にじのかけ橋 特定非営利活動法人 アメニティ2000 協会  
特定非営利活動法人ネットワークながた 特定非営利活動法人福祉ネット寿  
特定非営利活動法人ピュアコスモ 特定非営利活動法人ラマモンソレイユ コドモダス  
「大阪でひとやすみ！」プロジェクト

プログラム内容 : 1 移動支援  
2 住居の確保  
3 子どもの療育・子育て相談  
4 親子の心のケア  
5 学童保育支援事業

対象 : しょうがいをもつ子どもさんと家族

協力機関 : フレンドシップミーティングの専門ボランティアチーム  
児童支援、家族の心理面をサポートする専門スタッフ  
しょうがい児をもつ兄弟姉妹の会  
民間企業・学校法人・行政機関  
地域支援学校・支援学級・通園事業施設 各医療機関 その他の支援サポートのチーム



カムバックプロジェクトイメージ図



フレンドシップミーティングの様子(写真上下)



# プロジェクト実施内容

## <プロジェクトスケジュール>

- 8月3日 新大阪駅に到着 2組のご家族（各 母1名、子1名の2組） お出迎え  
（以下 ご家族を A・Bと表記）  
関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウス（大阪府枚方市方鉾町）宿泊  
ウェルカムパーティー
- 8月4日 神戸市のしょうがい児施設へ移動（プール、粘土作成）  
ショッピングセンター（阪神御影クラッセ）でショッピング  
ヴォーリズ六甲山荘へ移動 バーベキュー、宿泊  
ショートフレンドシップミーティングの実施
- 8月5日 大阪市港区 水族館「大阪海遊館」へ移動  
関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウス（大阪府枚方市方鉾町）宿泊  
（～ 8月10日まで）
- 8月6日 ご家族Bが、福島県へ帰郷  
ご家族Aは、フリータイム（近隣の公園で水遊び）（～10日まで）
- 8月8日 福島県から1組のご家族（以下 ご家族C）が来阪（母1名、子1名）  
お出迎えは、宇野田さん  
大阪市内の住宅事情をヒアリング
- 8月10日 ご家族Cが、神戸市内の住宅事情をヒアリング  
ご家族Cが、福島県へ帰郷
- 8月11日 ご家族Aは、長田区商店街で観光、その後神戸市長田区のくららベーカリーさんの民家へ移動、  
石倉ご夫妻との交流会  
（～14日までフリータイム）
- 8月12日 神戸空港、コウダイケアサービスさんでボディケア
- 8月14日 ご家族Aが、福島県へ帰郷

## <ご家族の構成>

### 福島県

- 南相馬市（ご家族A）母 1名 子 1名（自閉症）  
南相馬市（ご家族B）母 1名 子 1名（自閉症）  
郡山市（ご家族C）母 1名 子 1名



福島県へ帰郷される ご家族を見送りました。

# プロジェクト実施内容

2011年8月3日(水)

関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウスを宿泊・交流する場として活用させて頂きました。

初日は、ウェルカムパーティを実施し、お互いの自己紹介などを行い、手作りの料理などで、交流を行いました。

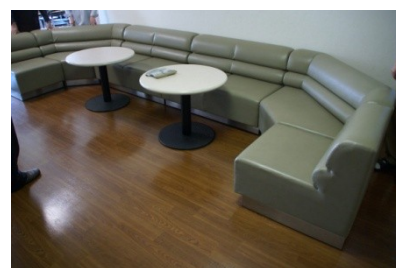
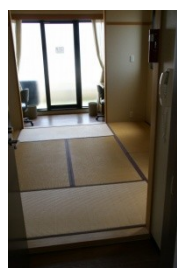
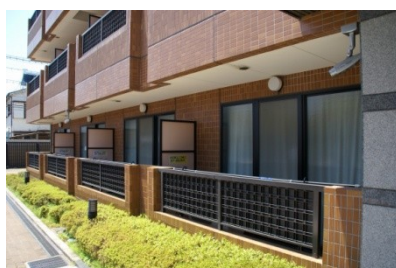


ウェルカムパーティの様子

事前にヒアリングシートを記入して頂いている内容を把握した上で、ご家族との対話を行い、ご家族の心身の状態の確認、子どもさんの状態等を確認。

子どもさんの趣向のチェックや行動のパターンなどを確認し、スタッフ間で今後の支援の方法について討議しました。

## < 宿 泊 場 所 >



関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウス

## < ご支援いただいた物資 >



ご支援頂いた新鮮な野菜



ご支援頂いた和牛肉

株式会社新紙浅 様から新鮮な野菜をご支援頂きました。

兵庫県湾岸開発株式会社 様からお肉をご支援頂きました。

株式会社ゆみのコーポレーション 様からお米をご支援頂きました

放射能による影響を懸念して、野菜や肉、米などの食糧に対して、慎重になっており、そのために食べる事が極端に減り、栄養による障害も懸念されていました。

今回のプロジェクトで新鮮な野菜、肉、米をお腹いっぱい食べたいとの意向を十分に叶える事ができ、満足して頂く事が出来ました。

# プロジェクト実施内容

2011年8月4日(木)

神戸市のしょうがい児施設へ移動



ご家族のご要望

力いっぱいプールで泳ぎたい

ゆっくりとした時間を過ごしたい

安全な食材で料理(お好み焼き)を作り、食べたい

参加家族

ご家族A、ご家族B



<ご家族のご要望 >

フレンドシップスタッフのサポートのもとプールで泳いで頂きました。

福島県では放射能の影響でプールに入ることが出来ないため、久しぶりのプールでの遊泳に子どもさんも力いっぱい元気に遊び、大喜びでした。



<ご家族のご要望 >

フレンドシップスタッフと自分の興味がある図鑑や本を読書、そして、スケッチへ。遊びの中から子どもたちの特性を活かし、集中力が切れるタイミングを狙って、ねんど工作を実施しました。子どもたちが書くのも作るのも皆「恐竜」でした(笑) さすが男子の子!



<ご家族のご要望 >

頂いた新鮮な野菜を使い、ご家族からのリクエスト「関西のお好み焼きが食べたい!」「よっしゃ!」と言うことでご家族とスタッフと一緒に好み焼きを作り、子どもたちもペロリと食べてしまいました。

# プロジェクト実施内容

2011年8月4日(木)～5日(金)

ヴォーリス六甲山荘へ移動



ヴォーリス六甲山荘

国登録有形文化財、近代化産業遺産、兵庫の近代住宅100選に登録/選定

建築年：1934年(昭和9年)

特定非営利活動法人 アメニティ 2000 協会さんが、この建物を管理されています。

今回は、法人さんのご厚意でお部屋をお借りいたしました。



カムバックプロジェクトメンバーとご家族との交流会

特定非営利活動法人 アメニティ 2000 協会の清水様からヴォーリス六甲山荘の説明を頂き、その後の交流会にもご参加頂きました。また、また、カムバックプロジェクトのメンバーでもあり、こちらの山荘をご紹介頂きました。特定非営利活動法人福祉ネット寿の姫野様、特定非営利活動法人にじのかけ橋の武田様も合流し、お互いの自己紹介を始めとして、情報の交換など楽しい時間を過ごしました。



ショートフレンドシップミーティングの実施

フレンドシップミーティングを実施致しました。

お母さんと子どもさんとのグループに分け、お母さんには被災地の現状、子どもさんのしょうがいのこと、これからのことなど、思いや悩みの相談をお受けしました。

子どもさんは、支援スタッフとお話をし、楽しく遊んでおりました(写真右上)

ヴォーリスの管理人清水さん(写真右前)とご家族

# プロジェクト実施内容

2011年8月5日(金)

大阪府大阪市港区 水族館「大阪海遊館」



<ご家族のご要望 >

ご家族の「海遊館のジンベイザメが見てみたい」そんな声で実現致しました。

4日にプールで遊泳し、そして海遊館で自分が好きな魚たちを見て、だんだんと心を開いてくれて、塞ぎ込んでいた様子から一変、元気にはしゃいでくれるようになりました。その姿を見て、お母さんも安堵されたようでした。

ゆっくりと大阪を見てみたいとご家族Aのお母さんは、自由行動、ご家族Bは、大阪府枚方市の関西外国語大学の寮へ移動、宿泊

2011年8月6日(土)

ご家族Bが、福島県へ帰郷



2011年8月6日(土)～10日(水)

ご家族Aのサポート



子どもさんは、福島県で外で遊べない環境にあることから、関西外国語大学寮の近くにありますが公園で水遊びをしたり、公園で走るなどして、力いっぱい遊びました。

夜は、フレンドシップスタッフのサポートのもと、花火などをし、夏の夕べを楽しみました。

お母さんは、近くのスーパーなどで買い物をし、料理等を行い、普段の生活を送って頂きました。

# プロジェクト実施内容

2011年8月8日(月)～10日(水)

福島県郡山市からご家族Cが、来阪

<目的>

大阪、兵庫などの関西地方に、移り住みたいとのご要望で、来阪初日、大阪市住吉区で住居探しを行いました。

9日(火)は、ゆっくりと過ごされました。

フレンドシップミーティングのメンバーと交流し、被災地の現状、これからご協力できること等をお話しさせて頂きました。

2011年8月10日(水)

ご家族C 神戸市の住宅事情をヒアリング

その後、ご家族Cが福島県に帰郷

2011年8月11日(木)～14日(日)



くららベーカリー-石倉さんの民家  
(写真奥 右隣がグループホームたろう)



くららベーカリーのお店



新長田の商店街  
(鉄人28号)

ご家族Aをお連れし、関西外国語大学 第三国際交流セミナーハウスを出て、新長田の商店街へ繰りだし、鉄人28号を見て、三国志資料館を見学、その後神戸市長田区のくららベーカリーさんの石倉さんのところへお邪魔し、交流をして頂きました。お昼は、福島県でも海鮮が食べられないということで、くら寿司へその後、長田区明泉寺町にあります。くららベーカリーの石倉さんの民家をご厚意でお借りすることが出来ました民家へ移動、近くに公園もあることから、大阪の時と同様、子どもさんも外で遊んで頂くことができました。

<石倉さんのコメント>

福島県の三瓶さんご家族を受け入れ、11日にお会いして、ゆうたろう君の希望で、お好み焼きを食べました。(本当は、自分で焼きたかったようですが・・・) くららの近くのお店ですが、このたびの状況をお話ししたところ、温かいご支援をいただきました。 地域との交流もできた。

このプロジェクトは、長い期間継続することが、大切だと思います。

皆さんそれぞれの役割があり、大変ですが、私たちも一緒に頑張ります。

今回の物件を、これからもプロジェクトに活用していただけたら、こちらとしてもうれしいです。

# プロジェクト実施内容

2011年8月12日(金)



コウダイケアサービス株式会社 (ボディバランスセンター)



神戸空港

<ご家族のご要望 >

コウダイケアサービス様からのご厚意で、お母さんのボディケアを実施して頂きました。その間、子どもさんを神戸空港へ、飛行機が大好きで、時間を忘れて、はしゃいでおりました。



須磨水族園～ 須磨海岸

お母さんと合流し、一緒に須磨水族園を見に行き、海の家「明石屋」さんの裏の海岸で足を付け、しばらくゆっくりして頂きました。

2011年8月13日(土)

ご家族Aのフリータイムです。

親子でバスと電車を乗り継ぎ、三宮、神戸を散策し、ゆっくりと過ごされました。

2011年8月14日(日)

ご家族Aは、福島県に帰郷されました。

# 参加されたご家族の感想

## <ご家族の感想> 母親

今回、「Come Back Project」に参加させて頂き、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。被災地の子ども、特に身障者の子どもにとって、放射能を気にせず遊べた事は、大変ありがたく、子どもも喜んでおります。また、子どもの面倒を見て頂いたので、ゆっくりと時間を過ごす事が出来たのも、とてもありがたかったです。

プロジェクトの主旨に参加されていたスタッフの思い遣りから、いつも感じておりました。子どもと同じ目線で接して頂いたり、気兼ねなく食べられる食材を頂いたり、皆で楽しい時間を共有できる憩いの場を沢山提供して頂きました。

宿泊施設もとても快適でした。大学寮の部屋はとても広く、個室もあり、勉強机もありましたから、宿題も出来ましたし、遊びだけではなくて、快適な「生活」を送ることが出来ました。

ヴォーリス六甲山荘は、瀟洒な作りの建物で、とても高貴な雰囲気の中で過ごせました。

息子が特に感激だったのは、プールに入れた事のようにです。ご承知の通り、福島では、プールに入れませんか、喜びは親の想像以上だったと思います。

水族館も嬉しかったようで、帰路の間、ずっと話をしておりました。紙粘土の工作も喜んでおり・・・と、催し全部が思い出になったようです。

沢山の思い出があり、沢山の感謝の気持ちで溢れた3日間でした。方向音痴の私を駅まで送って頂くなど、最後まで笑顔で面倒を見て頂きました。

まだまだ、辛い環境に苦しむ親子が福島には沢山います。どうか、私たちと同じ楽しい思い出が、一人でも多く作って頂けるように心から祈っております。スタッフの方々、どうか御身体にお気をつけて。そして、変わらぬ笑顔を多くの方々に送ってあげてください。今回は、本当に、ありがとうございました。

## <ご家族の感想> 子ども 小学3年生

ぼくは、大阪のプールに入れた事が一番うれしかったです。水にもぐったり、中でも水てっぽうで遊んだ事が楽しかったです。

家では出来ない事がたくさん出来たのがとても楽しかったです。

食事は、とうもろこしが甘くておいしかったです。ぎょうざもおいしかったです。

ほんとうにありがとうございます。



# プロジェクトスタッフの感想

## <参加スタッフの感想>

今回被災された方々には、募金を集め送るという形でしか支援できていなかったもので、何とか、直接子どもたちに支援を！という気持ちも持っておりましたので、参加させて頂きました。

私自身も阪神大震災のとき、生まれたばかりの子どもを抱え被災している時見ず知らずの人に助けて頂き、人の優しさや暖かさを感じました。

「私に何が出来るか？」兎に角、少しでも子どもたちやご家族が笑顔になれるようにと思い絶対行きたい！と強い思いをぶつけてくれたスタッフと共に、前日教室でお絵かきの道具や紙粘土などを用意し、参加させて頂きました。

神戸市のしょうがい児施設で子どもたちと一緒に、色々な話をしながらお絵かきや、紙粘土で恐竜や海の生き物を作って遊んだひと時、きっと私達が何か出来ているのではなく、彼らから大きなものを頂いているんだと強く感じました。

心の底から、笑ってくれる笑顔が、私たちを救ってくれているんだと。

「何かしなきゃ・・・」という心を埋めて行ってくれているんだな～と。

山荘の方でも、一緒に松葉を拾ったり、一緒に炭に火をおこしたり蝉の抜け殻を探したり、そんな当たり前の日常が、被災地では普通に出来ない現実、逆にこの当たり前のことを、いかに大切にしないといけないかそれも今回のプロジェクトによって実感させて頂きました。

お母様からも、「こんなに子どもの笑顔が見れて感謝しています。」とおっしゃって下さいました。こちらこそほんとに感謝です。

別れ際、何度も何度もサヨナラを言いに来てくれた子どもたち、暗い路を走って、サヨナラを言いに来てくれた時、涙が出そうになるのをこらえながら、車に乗せて頂きました。

このプロジェクトに協力してらっしゃる全てのスタッフの方に感謝しております。

人が人と繋がっている事、決して一人ではないこと、このことを実感する為にもそして、多くの方に伝えていくためにも、今後とも様々な形で継続的に支援をさせて頂ければと思っております。

堅田先生から、子どもたちがあの日以降も、 当日創った粘土の作品大切にしますよ とメールを頂き、心がジーンとしました。

ほんとに、有難うございました。

## <参加スタッフの感想>

カム バック プロジェクトのお話をお聞きしたのはカム バック プロジェクトの二日前、コドモダス副理事の阿部先生から参加するとのことをお聞きしました。

震災が起こり、「自分に何が出来るだろう？」と募金をしたり、物資を送ったり、鶴をこどもたちと折ったり、ニットを編んでみんなであんだパーツをつないでブランケットを作り、そのお金を被災地に送るプロジェクトに参加したりと 間接的な活動はしていましたが、直接、現地のこどもさんと過ごせるという活動があると知って、

こんなチャンスはない！っと仕事が入っていたのですが、理解のある同僚や上司からの了承も得、また神様からのご配慮か、授業のキャンセルが入り、心よく参加できることになりました。

どのよなことに気をつけたらいいだろう？と初め不安も少しありましたが、「心から一緒に楽しもう」と決め、その気持ちだけでもっていきました。

行くまでの間 小学3年生の男の子はどんなことが楽しいかな～～？私の夏の楽しい記憶は、水風船の投げ合いっこをしたり、水鉄砲で打ち合ったことだったので、そんなことを一緒にできたらな～～と思って向かうと、

すでに、水鉄砲で遊んでいたのも、とても嬉しくて、すぐに仲間に入れてもらい夢中で一緒に遊びました。紙粘土と一緒に遊んだり、かくれんぼしたり、「七色の幻のくわがた探そうぜい」と森の中を探し回ったり、天井にへばりついている虫を外に救出しようと、こどもたちと知恵を出しあって、棒で下へおびきよせる者、懐中電灯で虫を照らす者、うちわで叩き落す者と役割分担し力を合わせて、虫撃レンジャー遊びをしたこと、とてもとても楽しかったです。

とても過酷な体験をし、生活をしている中、それでも遅しく、笑顔を見せてくれたこどもたちにとってもとても希望と勇気を頂きました。

「今日帰っちゃうの？明日は魚釣りだよ いかないの？」と聞いてきてくれたり、なんどもなんども手を振って見送ってくれた こどもたちに、胸いっぱいのおたたかい愛を頂きました。

たくさんのこのプロジェクトをささえる方々一人一人の想いで、安全で安心そしてとても楽しい場力が生まれすばらしい時間を過ごせたこととても感謝です。

今年の夏の思い出、上位に踊り出る一日となりました！！

ありがとうございます。

### <参加スタッフの感想> (フレンドシップミーティングのメンバー)

ご一緒させてもらっている時に、プールで子どもさん達がとても楽しそうにしている様子を、嬉しそうにみておられたお母さんの顔が印象的でした。

お子さんの笑顔は何よりだったと思いますが、滞在中、お母さん達ご自身に少しでもホッとしていただけたらなぁと思っていたのですが、どうだったのでしょうか。

残念ながらお母さん方と、じっくりお話できるまでの時間がありませんでしたので、その辺りがわからぬままでしたが、今回、カムバックプロジェクトを使ってもらえて本当に良かったなと思っています。

参加されたお母さんが、「いろいろ調べたけれど、難しさをかかえた子供と親が、一緒に参加できるプログラムは、中々なかったから...」と言っておられました。

確かに、「よくある子どものみ受け入れのキャンプとかみたいに、子どもの単独参加は難しいもんなぁ...」と。「カムバックプロジェクトは、そんなかゆいところに手の届く、家族さんに寄り添った支援だよね～」と参加しつつ実感したのでした。

今は、今回利用してもらって良かったねで終わるのではなく、これからもつながっていく事がとても大切な事なんだろうなぁと感じています。

自分も、難しさをかかえる子供をもつ親としましては、「自分達の事を分かってくれる人がいるっていう事が、いかに大きな力になるか」という事を、身をもって感じています。私もそんな力に少しでもなれたらな...と言う思いで参加させて頂いています。今回の支援に参加された皆様方、本当におつかれさまでした。

参加された人達の中で、新たなつながりができ、支援の和がどんどん広がって、大きな力になっていくのが、素晴らしい事だなぁと思いました。

ご一緒させてもらえて、嬉しかったです。

ありがとうございました。

### <参加スタッフの感想> 高校3年生 (フレンドシップミーティングのメンバー)

今回のボランティアでしようがい者の接し方、色々な考え方など、様々な事をこのボランティアで学びました。今は皆さんのようには上手く出来ませんが、皆さんの活動を見て多くの知識を学んでいこうと思います。

# プロジェクトスタッフの感想

## <参加スタッフの感想> (フレンドシップミーティングのメンバー)

今回のような大震災では、突然、いつもの生活が一変し、大切な人や物などを失ったり、逆にそこから、本当に大切なものに、気付いたという面もあると思います。そんな中、親として、子どもの笑顔は、何よりの宝で、子どもは子どもらしく、元気に遊べる場所が必要であると思います。と言っても、大阪や神戸という、遠い土地に来るのも大変な決断でしょう。

特に発達障害などのお子さまの親御さんは、なおさらだと思うので、カムバックプロジェクトのような存在は、これからも必要であると思いました。

## <参加スタッフの感想> (フレンドシップミーティングのメンバー)

被災地から関西に来られる二組の親子に何かしらお手伝いできる事...とのお話を頂きました。急なお話だったので、時間も準備も殆どありませんでしたが、BBQ 参加だけでも...と言って下さったので、甘えて夕方から参加させてもらいました。

私が出来ることとを考え、まつ毛のエクステ、小顔マッサージの準備だけ持参して行きましたが、時間もなく...何もしてさしあげられなくて残念でした。

お一人のお母様は年齢も近く、個人的に少しお話出来ました。

被災地の様子や地域差によるイジメなど...ニュースだけでは知り得なかった話を聞き、おどろきました。

せっかく仲良くなりかけていたのに...時間がなくて、本当に残念。

関西在住も考えておられると聞いて、又お会いできるなら...是非会いに行きたいです。貴重な時間をいただきました。ありがとうございました。

## <参加スタッフの感想> (フレンドシップミーティングのメンバー)

3月の末に私を含め3名で宮城県へ訪問した時、急きょ作成して持ち込んだプログラムです。提案から問い合わせも特にないまま3カ月が過ぎましたが、子どもの夏休みを利用して参加者が現れたことについてうれしく思います。

3ヶ月間いろいろと進めてきた結果からですが、この内容は今も復興に向けての計画が不安定な福島県に対して特に必要なプログラムであると感じています。

見ず知らずの私達へ電話をすることはとても勇気が必要だと思います。ですが、その一本の電話で私たちとつながり、関西で過ごして笑顔で帰ってもらえたことは何よりの喜びです。

運営スタッフとしての反省点ですが、前半のプログラムは、ちょっと詰め込みすぎの感じがありました。

また、現地の下見について設備の確認など調査不足な部分もあり、運営するにあたり、注意が必要と感じました。

課題としては、これからも関西へ迎えるため、何よりも運営資金が必要です。東北から関西までは交通費が、家族全員分となりますと、家族が抱える負担金も高額になってしまいます。

また、こちらでの生活費も必要になるので、支援金だけでなく公的な補助金も含めて確保が必要と感じます。あと重要なポイントとして、来られた家族の方をアテンドするためのスタッフが必要です。夏休みなど長期の休みを利用して来られる方がほとんどだと思いますが、迎えるスタッフはボランティアでの対応になるので、平日はなかなかメンバーがそろいませんからこれから確保について検討していく必要があると思います。

# プロジェクトの課題

今回、初めてのカムバックプロジェクト受け入れでした。

福島県の事情は、報道されていないことだらけで、風評被害による「いじめ」「差別」「中傷」などが県内でも発生している点は、現地の方のお話を聞くまで、知りえない事実でした。

特に郡山市では、被災地として認定されておらず、罹災証明が出ず、補助も受けられない状態であることなどから、同じ福島県でも優遇される度合いが違います。しかし、放射能の影響力は大きく、鼻血や下痢が多数の子どもにみられ、放射能の影響を疑わざる得ない事実言葉に言葉を失ってしまいました。

そんなご家族のためにも、このプロジェクトが、必要とされている事を思うと、長く続けなければなりません。

このプロジェクトを長く継続させる課題は、次の点であると思います。

## 資金の必要性

被災地から関西地方に来るのにも交通費がかかってしまいます。少しでも家族に負担をかけないで、プロジェクトに参加して頂くことが必要となります。

## 協力して頂けるスタッフ及び機関

ある程度受け入れる場所が確保され、そのなかでスタッフが機能することができれば、無理も無駄もないことは間違いありませんが、受け入れる方々にも限界もあります。そこで、ある一定の受け入れ期間を数か所持ち合わせることで、受け入れる幅も大きくなるのではないかと考えます。

## 連絡体制の充実

現在、カムバックプロジェクト(=以下CBP)のメンバー全てが、他に仕事を抱えながら、プロジェクトを実行しております。これから、このプロジェクトは、もっともっと必要になります。そこで、事務局を置き、受け入れのコーディネートやCBP以外のプロジェクトを行っている団体(「大阪でひとやすみ!」プロジェクトなど)とタイアップして、受け入れの幅を広げることも必要であると考えます。

以上事務局としても長く継続的支援を実行していきたいと考えております。

カムバックプロジェクト事務局

田伏高治

# 総 括

カムバックプロジェクト(=以下CBP)は、現場の状況を知らないまま、頭の中だけで考え出されたプランではなかったのかという悔恨と、「発信することに意味がある。」ことに意味付けを置いてきました。

三家族の方がそれぞれにおっしゃられたように、このプロジェクトを必要としている人は多数いるということ。

そして残念なことに必要としている人の手に、目、耳にはまだまだ届いていないという現実を知りました。そんな中、うまくCBPを探し当てられた三家族皆様とつながりが出来、今度は現地での発信源になって下さればという願いで居ます。

今後は、学校の休みが長期になる春や夏の期間にプランを作成する意義が見出されました。これと並行して、移住を目的とされる方には、地域・環境情報のご提供や、住居・園・学校への手続きサポートなどが必要ではないかと考えています。

東北の地から遠く離れた関西までこうしてお越しいただけたのは放射能被曝からの避難が追い風になったからです。被曝を避けるためにしている防御策(マスクをつけたり、プールの授業を見学するなど)を同級生にからかわれ、平気に振舞う者たちが優位に立っている現状。しかも教師が「自主判断」の名目で、そのことに一切触れず交通整理のないまま、結果的に平気で振舞う側の肩を持つ構造になっています。「自主判断」といっても、小さな子どもほど、自身の判断というよりも親の意向が先行します。その間に立ってどれだけ子どもたちの心労が重なっていることでしょうか。

また、近域の県で、福島ナンバーの車には給油しない、お店の入店を断られるといった耳を疑うようなことが現実に定行進化しています。風評被害と被曝を避けることとの混同があります。また、人それぞれに考えがあって、それをある程度柔軟に受け留め、実現できる社会が人にやさしい社会ではないのかと思うのです。そのことをどうしてはっきりと明言しないのかと立ちを覚えます。神戸ユニバーサル研究会で推進して参りました願いの一つでもあります。

人への優しさを後回しにして繰り広げられている行政の在り方、電力会社の連続する失態、利益優先のためのごまかしや騙しが私たちの消費生活をも脅かし始めています。これからの日本を背負うべく小さな子どもさん、学生たち、妊婦の方のことを思うと憂うべき事態にあると思います。

こうした状況下で、かくれてしまいがちになるのがしょうがいを持つ方々です。CBPを立ち上げるに至った主因がしょうがいを持つ方々、家族の現状把握と支援でした。このたび来られた二家族の子どもさんは発達しょうがいをお持ちです。避難所では気を遣い、親類宅を転々とされたこと、ようやく借り上げの住居に安堵出来たという経過を話されました。3月から被災地に赴き、出来る調査を重ねて来ましたが、残念なことに会うことが叶わなかったのです。

CBPの特徴は、しょうがいをお持ちの子どもさんや家族の専門的なサポートが出来うるスタッフが居ることです。それはフレンドシップミーティングの存在が大きいと思います。

一家族の子どもさんは、震災以降幼年化現象(赤ちゃん返り)を見せ、どのように接していけばよいか。

また肉親の死を告げていないことの悩みを相談して下さいました。お話をじっくりと深めていきますと、幼年化現象は震災の恐怖というよりも、当初あずかってもらっていた祖父との関係の中で生じている可能性が発見できたこと。お母様の中では既に決まっている肉親の死の告知について、幼年化現象と重ねて考え、大変悩まれていました。一つ一つ気になるところを紐解き、ご無理のないやり方、言い方を探していくことが出来ました。そのチャンスは帰られて数日後に訪れ、予想通り、告げることが出来、小さな身体で上手に受け止められたと聞いています。このほか、子どもさんの今後の子育てについてや、人とのかかわり合いの中で育てていくべきポイントなどを細かに話し合うことが出来ました。他のスタッフの皆様もこれに関わって下さり、子どもの表現活動の手立てを引き出してもらえたことも大きかったように思います。まさにチームで取り組みました。そしてなによ

りも戸外で思いっきり身体を動かし、今年初めて入ったプールで大はしゃぎしたりと、その姿に改めて当たり前の生活の有難さを感じました。

この度のプロジェクトでは、皆さまの多大なご協力があったてなんとか達成できた取り組みであったことを、それを共感させて頂ける有難さを嬉しく、感動をも覚えます。

関西以西のお野菜を探しご提供して下さったこと。ずっと口にしていなかったお肉、しかも上質のものをご提供して下さったこと。個人のご寄付をはじめ資金を集めて下さったこと。移動用のお車を貸して下さったこと。お持ちの施設を最大限利用させていただけたこと。ウェルカムパーティの時に子どもさんと飾りを作って下さったこと。隙間のお時間をぬってお料理を作って下さったこと。お見送りに新大阪まで来て下さったこと。子ども達の安全を見守って下さったこと。遊びのお手伝いをして下さったこと。神戸ならではの美味しいおやつのご提供を頂けたこと。快適な居住空間をご提供頂けたこと。裏方で、上手く運ぶように手筈を組んで下さったこと。

そして、皆さまの温かいハートでお迎えし、ハートを持って帰って頂けたこと。そのハートは遠く離れていながらもしっかり結びついていること。皆様のお名前は省略させて頂きましたが、活動を通じ、ご一緒させて頂きましたことを心から御礼申し上げますとともに、お仲間にならせてもらっている喜びを実感しています。

委員長 堅田 利明